

アフィニティ 親和グループについてのノート

「親和グループ」という用語は、前フランコ時代に尊敬すべきイベリア・アナキスト連合（FAI）の基礎として案出された組織形態の名であったスペイン語の *Grupo de afinidad* の英語訳である。

（FAIは大きなアナルコ・サンジカリズムの労働組合であるCNT内のもっとも理想主義的な戦士達から構成されていた。）FAIの組織形態や方法の奴隷的な模倣は可能でもないし、かつまた望ましくもないだろう。三〇年代のスペインのアナキストは、今日アメリカのアナキストが直面している社会問題とは完全に異なった社会問題に面していた。しかしながら、親和グループ形態はいかなる社会状況にも適応する諸特徴を持っている。そしてこれらの諸特徴は、結果として生れた組織を「コレクティブ」、「コミュニケーション」、「ファミリー」等と呼んでいるアメリカのラジカルによってしばしば直観的に採用されてきた。

親和グループは、血族関係の絆が深く心を動かす人間的関係―共通の革命観と実践によって養われた関係―によって置き換えられる

ところの新しい型の拡大家族として易しく看なされ得る。「種族」という語がアメリカの反文化において大衆性を獲得した時よりもずっと以前に、スペインのアナキストは自らの諸会議を *assemblies de las tribus*―種族トライブの集會―と呼んでいる。各親和グループは、それを構成する人達の間で最高度の親密な関係を保持させておくために、慎重に小規模に保たれる。自律的であり、コミュニケーション的であり、直接民主主義的であるので、親和グループは日常の行動において革命的理論と革命的ライフ生活スタイルを組み合せる。親和グループは、革命家が己自身を個人的に、そしてまた社会的存在として改造することのできる自由空間を創出する。

親和グループは大衆運動内部で「前衛」としてではなく、触媒として機能すべく意図している。親和グループは大衆運動に「將軍連」や「司令部」をではなく、イニシヤティブと意識性を提供する。親和グループは分子的レベルで増加し、親和グループは己自身の「ブラウン運動」（液体中でコロイド粒子が行う不規則な運動）をす

る。諸親和グループが連合するか、分離しているかは遠くの中央からの官僚的厳命によってではなく、生きた情況によって決定される。政治的抑圧の状態下では、親和グループは警察の潜入には高度に抵抗性がある。仲間の間の関係の親密さによって、親和グループに警察が潜入するのは困難である。たとえもし警察の潜入が起つたとしても、潜入者に全体としての運動の觀察を与えるいかなる中央集権的装置もない。このような強圧された状態の下でさえも、親和グループは定期刊行物（新聞、雑誌）や種々の印刷物を通して相互に接触を保持し得る。

他方、高揚した行動の時期には、諸親和グループが、生きた情況によって必要とされるどんな規模においても、密接に共同すること、を妨げるものは何もない。諸親和グループは共通の政策を公式化するために地方集会、地域集会、国家的集会の方法によって容易に連合され得るし、諸親和グループはそれぞれの特殊な任務を調整するために一時的な行動委員会（一九六八年のフランスの学生や労働者の行動委員会のような）を創り得る。しかしながら、親和グループは常に大衆運動に根ざしている。親和グループの忠誠は非人格的な官僚制ではなく、革命的人民によって創出される社会形態に属している。親和グループの自律性と地方主義の結果として、親和グループは新たな可能性に対して感受性に富んだ正しい評価を保持し得る。生活スタイルにおいて極度に実験的であり、千差万別であるので、諸親和グループは大衆運動に対しては勿論、相互に刺激として作用する。各親和グループは大部分、独力で動いて行くのに必要とされる財源を獲得しようと努める。各親和グループは、ブルジョア社会によって個人的発展に加えられる社会的、心理的制限を打ち倒

すために、知識と経験の多面的で円熟した人間を追求する。各親和グループは、意識と経験の核として、親和グループが革命によって創出される有機的社會形態の中に最終的に分解消滅され得る時点に至るまで、人民の自然発生的革命運動を發展させようと努める。